



2022年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年8月10日

上場会社名 株式会社 NEW ART HOLDINGS
 コード番号 7638 URL <http://www.newart-ir.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 白石 幸生

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 松橋 英一

TEL 03-3567-8098

四半期報告書提出予定日 2021年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	4,014	41.4	254		284		51	
2021年3月期第1四半期	2,839	38.7	184		134		185	

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 13百万円 (%) 2021年3月期第1四半期 210百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	3.29	
2021年3月期第1四半期	11.78	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	17,477	8,008	45.8
2021年3月期	18,694	8,792	47.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 8,008百万円 2021年3月期 8,792百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		50.00	50.00
2022年3月期					
2022年3月期(予想)		0.00		70.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,600	12.0	1,120	31.3	1,030	15.6	640	34.5	40.63
通期	22,730	20.0	3,070	36.3	2,930	20.1	1,660	47.4	105.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期1Q	16,626,375 株	2021年3月期	16,626,375 株
期末自己株式数	2022年3月期1Q	875,706 株	2021年3月期	874,439 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期1Q	15,751,588 株	2021年3月期1Q	15,760,038 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	4
(3) 今後の見通し	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 当期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間は、グループ各社とも前期に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経済・社会情勢下での運営となりました。

このような状況下、株主並びに投資家への会社状況説明会を積極的に実施し、当社の現状及び今後の方向性等について説明をし、株主・投資家の理解を深めながら、ご意見をお聞きし、経営に反映させてまいりました。

又、グループ各社は後述のセグメント業績の通り、感染防止対策を徹底し、顧客満足を最優先としたサービス並びに将来を見据えた施策を実行してまいりました。

その結果、当連結会計年度における当社グループの業績は売上高40億14百万円（前年同四半期比41.4%増）、営業利益2億54百万円（前年同四半期は営業損失1億84百万円）、経常利益2億84百万円（前年同四半期は経常損失1億34百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益51百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億85百万円）となり、前年同四半期はマイナスであった利益項目をすべてプラスに転ずることが出来ました。

各セグメントの業績は以下の通りであります。

なお、「会計方針の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から、収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。詳細は、「第4 経理の状況 注記事項（会計方針の変更等）」をご参照ください。

また、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの名称を従来の「フィンテック事業」から「アートオークション・フィンテック事業」へ変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの名称に基づき作成したものを開示しております。

① ジュエリー・アート事業

当第1四半期連結累計期間におけるジュエリー・アート事業の売上高は33億69百万円（前年同期比45.0%増）、セグメント利益は5億81百万円（前年同四半期はセグメント利益10百万円）となりました。

ブライダルジュエリー事業は東京都・大阪府の緊急事態宣言下において商業施設内テナントが数店舗休業いたしました。成長戦略として前年に引き続き新規出店も予定通り実行しており、4月に「銀座ダイヤモンドシライシ立川店」を改装オープン、「エクセルコダイヤモンド立川店」を新規オープン、6月に当社未出店地区の鹿児島市に「銀座ダイヤモンドシライシミュプラザ鹿児島店」「エクセルコダイヤモンドアミュプラザ鹿児島店」の統合店舗を新規オープンいたしました。

また、ゴールデンウィーク期間中のCM放映や各種媒体出稿にて一定水準の集客数を確保致しましたが、競合する企業各社も対策を講じてきており、ブライダルジュエリーのNo.1企業として更なる営業力・集客力の向上を図ってまいります。

なお、7月に「銀座ダイヤモンドシライシ名古屋ユニモール店」の改装オープン、「エクセルコダイヤモンド名古屋ユニモール店」の新装オープン、8月には当社未出店地区の青森市と和歌山市に「銀座ダイヤモンドシライシ」「エクセルコダイヤモンド」の統合店舗を2店舗出店予定となります。

アート事業については新聞広告等の媒体を利用して積極的な広告宣伝と営業活動をすることで作品の販売が順調に進んでおり、今後更なる収益事業にしてまいります。

以上のとおり、ジュエリー・アート事業は当社の基幹事業として成長戦略を緩めることなく確実に実行してまいります。

② ヘルス&ビューティー事業

当第1四半期連結累計期間におけるヘルス&ビューティー事業の売上高は6億9百万円（前年同四半期比22.2%増）、セグメント損失は2億39百万円（前年同四半期はセグメント損失1億48百万円）となりました。

エステサロンの運営においては、昨期より国・自治体からの営業自粛要請等に従い、店舗の営業停止など感染防止対策に最大限協力をしてまいりました。その中でも、新規大型店舗の出店・店舗リニューアル・新卒採用の拡大など、将来への成長投資を継続して実施しています。また、当第1四半期においては新規集客増に向けたマーケティング改革への投資を行い、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、コロナ禍以前の水準以上に新規集客を伸ばさせることが出来ました。

利益面については、第2四半期以降の業績回復を見越して広告経費を投下したため結果として損失が出ましたが、人材育成・会員増加は順調に進んでおり、今後は売上および利益の増加が期待できる体制となっております。さらに本来エステサービスが持つ「美・健康・癒し」の効果・価値を成長市場であるヘルスケア産業へと展開し、新たな収益事業としての取り組みを推進していきます。

③ アートオークション・フィンテック事業

当第1四半期連結累計期間におけるアートオークション・フィンテック事業の売上高は2百万円（前年同四半期はゼロ）、セグメント損失は8百万円（前年同四半期はセグメント損失8百万円）となりました。

現状の売上高は信販事業の手数料収入が主となり、今後もグループ企業全体のビジネスに貢献する為、取扱高を増加させてまいります。

また、2021年7月に日本ではオークション事業の草分け的な存在であるエスト・ウェストオークションズ株式会社の株式を70%取得し、株式会社ニューアート・エスト・ウェストオークションズとしてオークション事業に進出いたします。現在、2021年秋のコンテンポラリーアートオークション、モダンアートオークションを実現すべく準備中で、2回のオークションで落札総額40億円、売上高(手数料収入)として6億円超を目標としております。2022年から日本のアートオークション事業としては業界No. 1企業を目指してまいります。

また、軽井沢リゾート開発事業は、軽井沢の12戸のレジデンスと1戸の山荘を隈研吾氏の設計により進行中で、1戸4～7億円で計13戸を2023年度に売り出す予定です。

④ スポーツ事業

当第1四半期連結累計期間におけるスポーツ事業の売上高は42百万円（前年同四半期比8.6%増）、セグメント損失は1百万円（前年同四半期はセグメント損失8百万円）となりました。

メイン事業として展開中であるゴルフクラブブランド「CRAZY」は、良質のカーボンを手作業で生産する「飛距離の出る」クラブとして根強いご支持をいただいておりますが、今期におきましては、ブランド認知度の更なる向上と、顧客層の裾野拡大に向け本格取組を始動しております。具体的な施策として、5月に開催された男子ツアー「ダイヤモンドカップゴルフ2021」への特別協賛、全英オープン中継等へのテレビCMや新聞広告の制作配信、カスタムクラブブランドとしての大手量販店への戦略的販路拡大を順次実行しており、その結果として、量産量販の既製品とは一線を画した「CRAZY」が着実に顧客層を拡げている手応えを感じております。3月に開催された「ジャパンゴルフフェア」がコロナ禍による大幅縮小開催となったことで当期間の業績は伸び悩みましたが、収支は着実に改善しており、引き続き、圧倒的な品質をもって、所期の業績計画達成に向けて上記施策を進めてまいります。

このほかに、ブランド開発研究所において、国産なめし革を使った新しいコンセプトの「ニューアート・シューズ」が製造段階にあり、併行してアスリートとのコラボ案件も着実に進捗しており、スポーツ事業としての業績寄与を見込んでおります。

以上のとおり、スポーツ事業は当社グループとして重要な成長分野と位置づけており、NEW ARTブランドとして、お客さまに「本物」をお届けするための取り組みを行っております。

(注) 各セグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載しています。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末比11億95百万円減少（前連結会計年度末比10.0%減）し、107億1百万円となりました。これは、現金及び預金の減少12億79百万円などによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末比21百万円減少（同0.3%減）し、67億75百万円となりました。これは、建物及び構築物（純額）などの有形固定資産の増加97百万円などの一方で、繰延税金資産などの投資その他の資産の減少1億10百万円などによるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末比12億17百万円減少（同6.5%減）し、174億77百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末比3億70百万円減少（前連結会計年度末比4.7%減）し、75億84百万円となりました。これは、短期借入金の増加4億46百万円などの一方で、支払手形及び買掛金の減少87百万円、未払金及び未払費用の減少98百万円、並びに未払法人税等の減少4億19百万円などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末比63百万円減少（同3.2%減）し、18億84百万円となりました。これは、長期借入金の減少1億7百万円などによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末比4億33百万円減少（同4.4%減）し、94億68百万円となりました。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末比7億83百万円減少（前連結会計年度末比8.9%減）し、80億8百万円となりました。これは、剰余金の配当7億87百万円などによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は45.8%（前連結会計年度末は47.0%）となりました。

(3) 今後の見通し

2022年3月期の連結業績予想につきましては、2021年5月10日公表の業績予想から変更はありません。なお今後、業績予想について変更がある場合は速やかに公表いたします。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,133,148	1,853,868
受取手形及び売掛金	1,489,608	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	1,563,234
商品及び製品	6,640,738	6,639,734
仕掛品	60,082	52,659
原材料及び貯蔵品	268,549	272,330
前払費用	158,457	172,407
その他	391,751	394,076
貸倒引当金	△245,241	△246,440
流動資産合計	11,897,094	10,701,870
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,460,194	1,539,422
機械装置及び運搬具(純額)	6,487	6,035
工具、器具及び備品(純額)	840,998	850,743
土地	2,100,180	2,100,180
リース資産(純額)	299,657	307,630
建設仮勘定	—	1,344
有形固定資産合計	4,707,518	4,805,356
無形固定資産		
のれん	281,589	276,309
その他	43,847	40,444
無形固定資産合計	325,437	316,754
投資その他の資産		
長期貸付金	637,340	621,740
繰延税金資産	180,456	123,398
敷金及び保証金	1,222,566	1,202,182
その他	383,248	348,596
貸倒引当金	△659,155	△642,449
投資その他の資産合計	1,764,456	1,653,468
固定資産合計	6,797,412	6,775,579
資産合計	18,694,506	17,477,450

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	232,291	144,900
短期借入金	3,610,000	4,056,700
1年内返済予定の長期借入金	459,274	445,378
リース債務	91,382	96,786
未払金及び未払費用	869,029	770,987
未払法人税等	598,589	178,947
前受金	1,625,061	—
契約負債	—	1,566,964
その他	468,598	323,370
流動負債合計	7,954,227	7,584,034
固定負債		
長期借入金	962,359	855,159
リース債務	220,230	215,636
退職給付に係る負債	222,954	224,109
その他	542,115	589,631
固定負債合計	1,947,658	1,884,536
負債合計	9,901,886	9,468,570
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,617,252	2,617,252
資本剰余金	2,376,202	2,376,202
利益剰余金	4,580,542	3,836,144
自己株式	△637,490	△638,933
株主資本合計	8,936,506	8,190,664
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	181	188
為替換算調整勘定	△144,067	△181,973
その他の包括利益累計額合計	△143,886	△181,785
純資産合計	8,792,620	8,008,879
負債純資産合計	18,694,506	17,477,450

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	2,839,910	4,014,598
売上原価	1,114,876	1,446,631
売上総利益	1,725,034	2,567,967
販売費及び一般管理費	1,909,197	2,313,583
営業利益又は営業損失(△)	△184,163	254,383
営業外収益		
受取利息	3,880	2,769
為替差益	25,336	41,378
助成金収入	29,424	—
その他	1,555	5,437
営業外収益合計	60,197	49,585
営業外費用		
支払利息	10,212	14,843
貸倒引当金繰入額	—	4,423
その他	71	41
営業外費用合計	10,283	19,309
経常利益又は経常損失(△)	△134,248	284,660
特別利益		
固定資産売却益	18	—
特別利益合計	18	—
特別損失		
固定資産除却損	—	705
特別損失合計	—	705
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△134,230	283,955
法人税、住民税及び事業税	42,298	175,037
法人税等調整額	9,196	57,057
法人税等合計	51,494	232,094
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△185,725	51,860
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△185,725	51,860

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△185,725	51,860
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	88	6
為替換算調整勘定	△24,473	△37,905
その他の包括利益合計	△24,384	△37,898
四半期包括利益	△210,109	13,961
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△210,109	13,961

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリ ー・アート 事業	ヘルス&ビ ューティー 事業	アートオー クシヨ ン・フ ィンテッ ク事業	スポー ツ事 業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,323,317	477,426	—	39,166	2,839,910	—	2,839,910
セグメント間の内部 売上高又は振替高	379	21,496	—	—	21,875	△21,875	—
計	2,323,697	498,922	—	39,166	2,861,786	△21,875	2,839,910
セグメント利益又は損 失(△)	10,536	△148,483	△8,955	△8,709	△155,611	△28,551	△184,163

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用△28,551千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー・アート 事業	ヘルス&ビューティー 事業	アートオークション・ フィンテック事業	スポーツ事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	3,359,129	600,089	2,495	42,529	4,004,243	—	4,004,243
その他の収益(注) 3	10,354	—	—	—	10,354	—	10,354
外部顧客への売上高	3,369,483	600,089	2,495	42,529	4,014,598	—	4,014,598
セグメント間の内部 売上高又は振替高	421	9,463	—	—	9,884	△9,884	—
計	3,369,904	609,553	2,495	42,529	4,024,483	△9,884	4,014,598
セグメント利益又は損 失(△)	581,070	△239,724	△8,438	△1,259	331,648	△77,264	254,383

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用△77,264千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他の収益には、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれるリース取引等が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「会計方針の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から、収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

この結果、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「ジュエリー・アート事業」の売上高は27,415千円減少しておりますが、セグメント利益にあたる影響はありません。「ヘルス&ビューティー事業」の売上高は6,991千円増加、セグメント損失は6,991千円減少しております。

また、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を従来の「フィンテック事業」から「アートオークション・フィンテック事業」へ変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの名称に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

取得による企業結合

当社は、2021年7月9日開催の取締役会において、エスト・ウェストオークションズ株式会社（以下、「エスト社」といいます。）の発行済株式の70%を取得し、子会社化することについて決議致しました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	エスト・ウェストオークションズ株式会社
事業の内容	各種美術品のオークション企画・主催・運営

② 企業結合を行った主な理由

当社は、3年後の創業30周年を視野に入れた中期経営計画を検討中ではありますが、方向性としては筋肉質で競争力のある企業を目指しております。コロナ禍の影響も含め不確実性の高まるなか、成長性が見込める成長分野への注力が求められていると認識しております。エスト社は、個人筋・業者筋の所有する絵画や骨董品等の美術資産を流通させるためオークション企画・主催・運営を手掛けています。

当社はアート事業分野を持ちエスト社の存在は既知でありましたが、2021年1月頃、エスト社からアート分野として協業の可能性が見込める当社に資本提携の打診があり、当社としてもエスト社はオークションへの出品者・買い手などの顧客関係・鑑定能力・オークションの実行スキルなどにおいて高いノウハウを持つ草分け的存在であり、オークションの仕組みを通じた当社グループ保有絵画の販売や第三者からの出品取扱いを通じて、アート事業の成長の機会ととらえ、取得比率や提携後の協業内容について交渉し、最終的には、エスト社の現体制を継承しつつ子会社化をする70%の株式取得の合意にいたりしました。

エスト社は、絵画を主力に日本・中国美術、和骨董、東南アジア美術、西洋装飾美術、日本戦後美術、近代・現代美術、ジュエリー、時計、金製品、エコール・ド・パリ、アール・ヌーヴォー&アール・デコ、ヴィンテージワイン&ウィスキーなどを取り扱っています。具体的には、出品作品の査定、カタログ製作、オークションの主催を行っており、出品作品は所有者からの委託販売となるため、在庫は持たず、委託販売を主体としたカタログ掲載料・作品保管料・作品鑑定料などの手数料収入を得ています。通常、1年間に2回、日本と香港で春と秋にスプリングセール、オータムセールと称してオークションを展開しています。オークション会場での入札に加え、インターネットのオンライン入札「ライブビッド」、電話による入札「電話ビッド」も受け付けています。なお、同社本社がオークション会場も兼ねています。

直近のエスト社のオークション取扱額・収益性は、オークション開催数・売上高、営業損益もともに漸減傾向で足踏み状態にあり、個人経営的な実情から業容拡大策に関しては手詰まり状態にあり提携先を必要としておりましたが、当社グループとして創業以来、アートと美に着眼して事業を運営し、子会社である株式会社ニューアート・フィンテックにおいてアート事業を展開し、美術品の展示・販売も行っており、軽井沢ニューアートミュージアム（所在：長野県北佐久郡軽井沢町1151-5、運営：一般財団法人軽井沢ニューアートミュージアム：土地建物：株式会社ニューアート・フィンテック所有）においても美術品の展示を通じた文化貢献を支援しています。

また、当社の株主である株式会社ホワイトストーンは、日本において、また、その親会社であるWhitestone Gallery Co., Ltd.は、香港及び台湾でギャラリーを運営し、アジアを中心にグローバルに絵画・美術品の展示・販売、アートフェアを業務展開しております。これにより、現代美術を中心とした豊富な高価格帯（1億円以上）の絵画作品のオークション出品提供が可能と判断しています。

従って、エスト社のオークションというプラットフォーム・ノウハウに、当社グループ及び株式会社ホワイトストーンの協働で、保有絵画作品あるいは外部顧客からの出品作品を合わせて投入することによりシナジー効果を発揮、オークション取扱額を増加させ、当社としては顧客との相対販売から、コロナ禍にあつてエスト社を子会社化し獲得するオークションプラットフォームにより美術品の販売が可能となることを通じて、収益の増加による企業価値増大を見込めると判断いたしました。

③ 企業結合日

2021年7月26日

④ 企業結合の法的形式

現金及び当社株式を対価とする株式の取得

⑤ 結合後企業の名称

結合後の企業名に変更等はありません。

⑥ 取得した議決権比率

70%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金及び自己株式を対価としてエスト社の株式70%を取得したためであります。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	179,987千円
	企業結合日に交付した自己株式の時価	240,013千円
取得原価		420,000千円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

株式価値算定、財務・法務デューデリジェンス、割当予定先に関する調査費用 3,500千円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定していません。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定していません。